

平成25年11月22日

川崎市上下水道局

## 川崎市の水源

### 1 川崎市の水源内訳

水系	種別	水源水量 (m <sup>3</sup> /日)		水源開発等事業名	
		上水	工水		
自己水源	相模川	表流水	422,000	241,000	相模川河水統制事業 相模川総合開発事業
	多摩川	表流水	—	200,000	
	地下水 (浅井戸)		100,000	50,000	
	計		522,000	491,000	
企業団	酒匂川	表流水	495,200	—	企業団創設事業
	相模川	表流水	10,400	—	企業団相模川水系 建設事業
	計		505,600	—	
水道事業からの取水		—	40,000		
合計		1,027,600	531,000		

\* 自己水源相模川表流水に東京分水 230,000m<sup>3</sup>/日は含まない

\* 企業団水量は1日最大給水量

\* 企業団相模川表流水は、相模川水系建設事業の第1期事業分

## 2 共同事業による水源開発

### (1) 相模川表流水

#### ア 相模川河水統制事業

- ・ 調査工事期間 昭和 13 年～22 年
- ・ 日本初の河川総合開発事業
- ・ 広域的水資源開発事業
- ・ 水道用水、工業用水、農業用水、発電を目的に計画
- ・ 事業主体は神奈川県、維持管理は神奈川県、横浜市、川崎市の共同事業
- ・ 開発水量は水道用水 894,000m<sup>3</sup>/日（内川崎分 380,000m<sup>3</sup>/日 東京分水 230,000m<sup>3</sup>/日含む）、工業用水道用水 186,000m<sup>3</sup>/日（内川崎分 100,000m<sup>3</sup>/日）、農業用水最大 360,000m<sup>3</sup>/日
- ・ 主な基幹施設は相模ダム、沼本ダム、道志ダム、津久井ずい道、津久井分水池
- ・ 川崎市への導水ルート

沼本取水口 ⇒ 津久井分水池 ⇒ 下九沢分水池 ⇒ 長沢浄水場

津久井ずい道

相模ずい道

第1導水ずい道

#### イ 相模川総合開発事業

- ・ 調査工事期間 昭和 28 年～40 年
- ・ 昭和 30 年代後半には水源不足が予想され本事業を計画
- ・ 神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市の共同事業
- ・ 開発水量は水道用水 909,000m<sup>3</sup>/日（内川崎分 272,000m<sup>3</sup>/日）、工業用水道用水 387,000m<sup>3</sup>/日（内川崎分 141,000m<sup>3</sup>/日）
- ・ 主な基幹施設は城山ダム、本沢ダム、寒川取水堰
- ・ 川崎市への導水ルート

(ア) 沼本取水口 ⇒ 津久井分水池 ⇒ 下九沢分水池 ⇒ 長沢浄水場

津久井ずい道

相模ずい道

第1導水ずい道

(イ) 沼本取水口 ⇒ 津久井分水池 ⇒ 淵野辺接合井 ⇒ 潮見台着水井

津久井ずい道

第2導水ずい道

第2導水ずい道







# 水道施設配置図

